

I. 第12回復興計画推進会議議事録(要旨)

1. 住環境の向上についての提案

○「住環境の向上に関する提案書」の提出

住民委員代表が今回の提案書について、その背景と理由などを説明し、事務局が提案書の内容について説明した後、委員一同から副町長へ提案書を手渡しました。

○副町長の講評

町の復興にとって大変重要な課題を協議されており、提案書にまとめていただき大変感謝申し上げます。

高齢者等の引きこもり防止策や新たな団地での新しいコミュニティ形成など町としても大きな課題として捉えている。

買い物環境の向上では、町の身の丈に合った持続可能な買い物環境づくりを提案されており、町としてもこの提案を活かして今後の仕組みづくりを進める。

移動の利便性向上では、永続的に補助金に頼った公共交通の運行ができないという問題と、高台団地等が町内に点在することから、よりきめ細やかなサービスが必要という問題がある。町民自らがお互いに助け合う（近所付き合い）という提案は大変ありがたく、町としても持続可能なコンパクトで利便性の高い公共交通となるように取り組む。

交流の場の創造については、町民の皆さんが活動できる交流スペースを設けられるよう努力し、その活動がしっかり情報発信できる機会を設けられるよう取り組む。

前年度の提言・要望書に引き続き、今回の提案書も大変すばらしい内容であり改めて感謝する。引き続き「働く場を創る」というテーマについても皆様から貴重な意見を賜りたい。



2. 検討結果のまとめ

◎検討のテーマ

Iターン・Uターンを誘導できるような 南三陸町の資源を活用して新たな雇用を創出するアイデア

<地域の収入や雇用につながった事例の報告（事務局）>

- 住民主体の例) 公民館長のアイデアが住民の収入につながった「やねだん」
- 行政主体の例) 地域資源からブランドを生み出し産業を起こした「海士町^{あま}」
- 補助制度の例) 「地域おこし協力隊」の活用

<検討の視点>

◆南三陸町の海・山・里・人の資源などを賢く利用して雇用を創出

- ①新たな収入や雇用を生み出した事例の感想、住民の知っている事例紹介
- ②地域の収入や雇用につながる町の資源（種）
- ③新たな収入や雇用への展開方法
- ④生活する上で困っている人を助ける、楽にする仕事が必要

◎検討結果

①新たな収入や雇用を生み出した事例の感想や住民委員が知っている事例について

・事務局が用意した地域住民主体で収入を生み出した「やねだん」などの事例の感想や住民委員が知っている事例について話し合いをしました。

・「ここでしかない」というものが見つからないので、収益につながるものを見つける。

・畑があっても作る人がいない問題があり、働く人を募り、仲間同志でやれると良い。

・地域の高齢者を元気づけることが必要。
・地域興しをして雇用につなげるにはある程度時間がかかると思う。

岩手県の例

・せんべいからはじまり今はパスタもつくっている。(地域資源の多角的利用)

丸森高齢者活動センターの例

・得意なものを作っていて、地域の収入、やりがいにつなげている。

入谷地区「さんさん館」の例

・「さんさん館」では「やねだん」のような地域おこし活動を実践してきている。

②新たな収入や雇用につながる資源(種)について

<ul style="list-style-type: none"> ・南三陸町での新たな収入や雇用につながる資源について、次の発言がありました。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・山の資源を活用する。 ・海の資源では「アカモク」を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・椿の種は平成26年に、二斗ほど拾えたので油の販売に活用できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・入谷特産の葉タバコ(生産者が減ってはいるが。) ・ネギは1反歩(約 992 m²)40万円ぐらいの収益がある。捨てるものがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平磯、袖浜の枝豆が格別においしい。(小さなブランドになる)
<ul style="list-style-type: none"> ・寄木地区でのワカメの売り方に工夫がある。(袋詰め、パンフ、販路拡大。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさん、おばあさんグループの収入や雇用につながるものをやる。 ・やって楽しみながらしっかり作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・入谷、歌津では生産量は少ないが、有名な産地よりおいしい果物がとれる。(りんご、イチジク、柿、梨など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・そばはつくりやすい。新しいそばをみんなで作って食べておすそ分けもする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・エリンギ、しいたけなども生産している。

③新たな収入や雇用への展開方法

<ul style="list-style-type: none"> ・町の資源を使って新たな収入や雇用に展開する方法について話し合いました。 	
<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理上必要なので、みんなで使える加工場をつくる。(例:みなさん館) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなブランドを集めてギフトセットなどをつくる方法がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・(商品開発・試験販売のできる)産直施設をつくる。(昔のサンポート1階) 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で頑張れるものをブランド化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが自慢できるブランドをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南三陸町の良いものをなぜ売れているか見える形で整理する。
<ul style="list-style-type: none"> ・住民自身が地場産品を買って育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にやりたい人を探す。 ・作る人のモチベーションを上げる ・協力していく仕組みをつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・しめ縄教室などを開いて子どもたちに昔ながらの伝統を伝え、商品化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが誇れるものと外部から来て素晴らしいと思ったものを見つける。
<ul style="list-style-type: none"> ・軽トラ市、青空市場(マルシェ)を開催する。団地を巡回して販売する。 ・自分たちで持ち寄って売る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作る人、紹介する人、売る人を育て、それをつなぐ人を見つける。小さなブランドとして外部から見える工夫をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・他と競合しないものをブランド化していく。:例:アスパラ+ラーメンでアスパラメン(アスパラは単価が高い多年草で収穫の手間が少ないのでおすすめ。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・素人も参加しやすいもの、他と競合しないものを見つけ、ブランドを育てる。

④生活する上で困っている人を助け、楽にする仕事が必要

<p>・町の人口減少を止めるためにも、生活する上で困っている人を助け、楽にする視点からも「働く」ことを考えました。</p>	
<p>・何度も引越しが必要になり、困って町外に出る人がいるので、仮設住宅間の引越しの手伝いや、高齢者を見守る人が必要。</p>	<p>・復興応援隊の人が町内で結婚し定住をする人も出てきている。これからも復興支援の仕事が続けて欲しい。</p>
<p>・まず気持ちを前向きにして、攻め(ブランド化)と守り(不安の解消)を考えていく。</p>	<p>・生活支援員が培ってきた信頼関係をつないで、生活支援の仕事をしてもらう。</p>
<p>・外部の人が定住を希望しても町内に住宅がなく登米に住まざるをえない。(住民票が移せないで人口が増えない。)</p>	<p>・一般住民がチャレンジしやすい起業支援のしくみ、ネットワークをつくり、町民の気持ちを盛り上げる。</p>

3. 学識者・有識者委員からの助言

1) 稲葉委員

<p>・地域おこし協力隊の制度が紹介されたが、これをもとにして復興応援隊ができています。仙台から家族4人でできている人もいます。</p> <p>・定住するためには仕事がないといけない。中には、復興応援隊の制度がなくなっても自分で仕事をつくらうと考えている人がいます。</p> <p>・復興応援隊の人は(町内に住むところがないので)登米から通って町内に活動拠点を持っています。<u>復興応援隊の活動と地域からの起業がうまくかみあっていくと良い</u>と思います。</p> <p>・<u>町民が起業する勉強会</u>などもできたらよいと思います。</p>

2) 宮原委員長

<p>・南三陸町には良いものがたくさんあります。農産物、水産物を加工して、<u>小さなブランドを積み重ねていく</u>ことが大切と考えます。</p> <p>・町の起業支援制度はプロ向けの支援なので地域から起業するにはハードルが高いです。<u>一般町民を対象にコンペを開き、提案を発表してもらい、良いものに補助金を出す仕組みがあれば、地域発の起業が育っていくのではないのでしょうか。</u></p> <p>・町の中に、<u>地域ビジネスの担い手となってくれる、働きたい人、前向きな人をうまく探せる仕組みができると良い</u>と考えます。</p>
